

「架け橋プログラム」は「子どもの立場で考える」ことが大事！

～第3回は架け橋プログラムの効果や「はじめの一歩」についてお伝えします～



ある自治体のホームページ（HP）で「就学時健診前に学校 HP の更新を！」と呼びかけているのを見つけました。次年度我が子が通う学校は、どんな学校か知りたいと思う、保護者からのアクセスが増加するのが、就学時健診前後の秋頃からとのことです。いわき市内の各小学校の HP はどうでしょうか。「最近、アクセス数が増えた」と感じる学校は、もしかしたら次年度入学予定の保護者が、子どもと一緒に見てくださっているかもしれませんね。

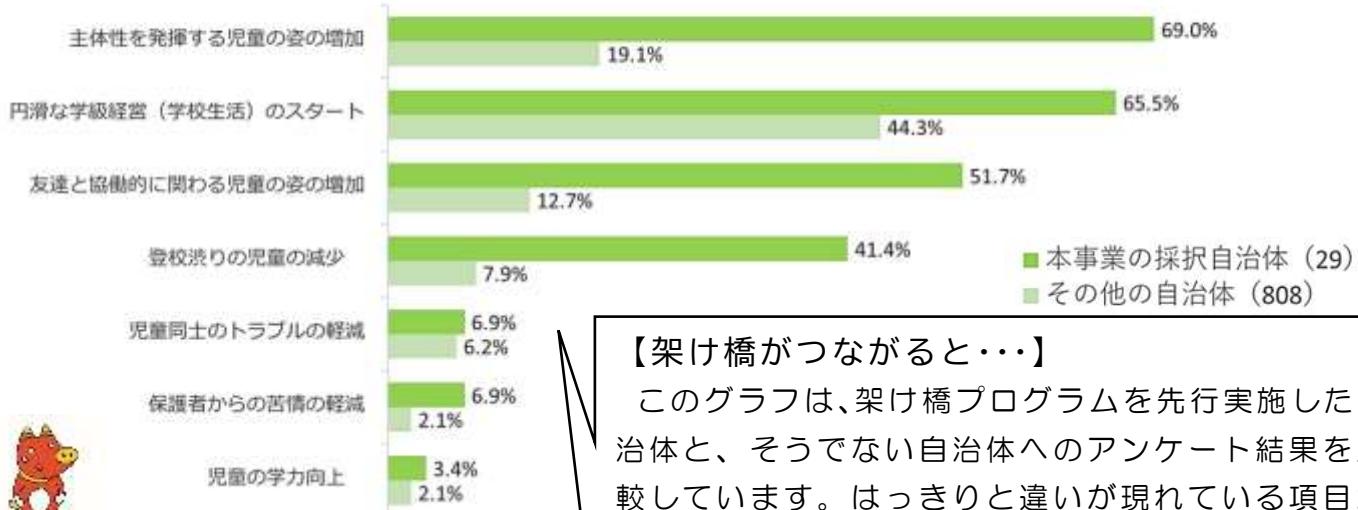
幼保小の架け橋プログラムの成果

（幼保小の架け橋プログラム事業におけるアンケート調査結果より）

文科省 HP より引用

Q. 幼保小の接続に取り組んでいる中で、改善された小学校（学級）の課題があれば、当てはまるものを選択してください。（当てはまるものを全て選択）

【改善された小学校の課題（令和5年度）】



小学校の先生方にまずお勧めしたいのが第2回でも書いた「幼稚園や保育園を参観すること」です。環境作りの工夫・主体性を促すような園児への言葉かけ・友達との関係作りを育てる見取りや助言など、子どもの発達に即した関わり方をぜひ、実際に見る機会をご検討ください。小学校入門期の教室環境や授業の在り方を見つめ直すチャンスです。

【架け橋がつながると…】

このグラフは、架け橋プログラムを先行実施した自治体と、そうでない自治体へのアンケート結果を比較しています。はっきりと違いが現れている項目があるのが分かります。異なる園から集まってきた子どもたちが、環境や人間関係の急激な変化に慣れるのは、実はとてもハードルが高いことです。小学校側でも、そのハードルを少し下げるような取組を行うことで、子どもたちは、その後の学校生活や人間関係作りをとても安心して、確実に進めることができます。

近年、本市でも小学校低学年での不登校者数の増加が見られます。困り感を抱く子どもを一人でも減らす方策の一つとして、架け橋プログラムは有効です。